



理科始めました。
5年「菜の花ってどんな花？」

理科のおもしろさを伝える授業

～単元に入る前に自作教材を使って～

菜の花ってどんな花?という入口から、授業を始めました。これは毎年、5年生の授業で取り組んでいる内容です。教科書にはありません。(啓林館にはあります。啓林館好きですみませんw)

こちらの花は何の花でしょう?と聞くと、菜の花!!と答えます。登下校中に、川辺や田んぼ道にいっぱいさいている黄色花です。「菜の花」というのは実は、アブラナ科の花をまとめてそう呼んでいるんです。特に、アブラナまたは、セイヨウアブラナを指します。

しかし、このアブラナは、道端ではめったに見かけません。この花は、「カラシナ」という植物です。明治以降に、日本に植えられ帰化したものです。大昔、今の湿布薬として「からし」を体に塗っていたそうです。



では、この花は何の花でしょう?みんながよく冬に、お鍋に入れて食べたことのある野菜です。徐々に下の方の葉を見

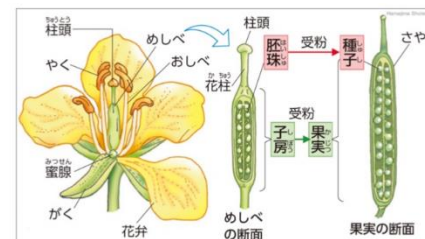


せながら、葉の形から野菜を考えさせます。そうです。白菜です。白菜も実は「菜の花」で、アブラナ科なんです。他にも、ブロッコリー、大根、チンゲンサイ、キャベツなども全部アブラナ科で菜の花です。これを聞いてみんなびっくりしていました。



冬育てた野菜を春までほっておくと、立派な理科教材になります。毎年、これを残しておいて写真をとっています。

授業の3分の2は、活動をしします。カラシナの花のつくりを調べます。調べるといっても、ピンセットで一つ一つ解体し、黒い画用紙の上に並べて押し花にします。この作業をみんな夢中になって取り組みます。ピンセットの使い方にも慣れます。黒い画用紙を使うことで、きれいに見えて、観察にも意欲バツグンです。この学習は2学期に、「ヘチマ」の「花のつくり」で再度学習するときに大変生きてきます。続けていきたいです。



図：花の構造 (アブラナ)